

研修委員会

永尾 暢夫*

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会(以下協議会)では会員である全国の臨床検査技師教育施設で教育に携わる教員の研修のサポートを目的に「研修委員会」を組織の中に立ち上げた(表1)。その業務は、協議会が主催する「日本臨床検査学教育学会学術大会(以下学会)」で、研修コーナーを企画・運営することと随時、教員研修会を開催することである。

研修委員会による第1回の企画・運営業務が、九州大学大澤教授が大会長として開催された第3回学会で行われた。その内容は大きく2つあり、1つは2題の「講演」(①血液法、改訂「指針」と輸血医療の課題—安全かつ適正な輸血医療実践の重要性—; 東京大学医学部附属病院輸血部 高橋孝喜教授、②各種認定制度と今後の動向; 大東文化大学健康科学科 伊藤藤一教授)、他の1つが「イブニングセミナー」と称した会員の教育部門別による意見交換会である。

この意見交換会「イブニングセミナー」は医歯

薬出版株式会社の後援で第2回学会から行われており、研修委員会がこれを企画・運営するのは初めてのことである。1会場を9部門(表2)に分け、参加者が自身の担当する教科あるいは興味を持つ分野に参加する方式を採った。話題は「統一テーマ」と各部門の進行役が考えた「独自のテーマ」を用意し、意見交換を行う形で行った(表3)。

「統一テーマ」では、研修委員会が今後どのようなものを企画することが会員に寄与できるのかを考える材料探し、「独自のテーマ」については、前回の香川県で行われた第2回学会の「イブニン

表2 イブニングセミナーの部門別区分と進行役

病理	羽山正義 吾妻美子	信州大学 高知学園短期大学
生理機能検査学	所司睦文	川崎医療短期大学
微生物検査学	森田耕司 川本保子	杏林大学 藤田保健衛生大学
臨床化学	寺平良治 奥村伸生	藤田保健衛生大学 信州大学
免疫検査学	細井英司	徳島大学
一般検査・ 基礎検査学	酒井健雄	神戸常盤大学
血液検査学	岡野こずえ 真鍋紀子	山口大学 香川県立保健医療大学
情報科学	鈴木茂孝 篠原紀幸	藤田保健衛生大学 山口大学
遺伝子検査学	奥宮敏可 高岡栄二	熊本大学 高知学園短期大学

表1 研修委員会委員名簿

委員長	永尾暢夫	神戸常盤大学
委員	岡野こずえ	山口大学
	奥宮敏可	熊本大学
	所司睦文	川崎医療短期大学
	寺平良治	藤田保健衛生大学
	羽山正義	信州大学
	森田耕司	杏林大学

*神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 n.1121nagao@kobe-tokiwa.ac.jp

表3 イブニングセミナー統一テーマ

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義を担当するにあたって ・学生実習を担当するにあたって ・研究を行うにあたって ・将来行って欲しいテーマ |
|---|

グセミナー」のまとめを必要とする部門があるとの意見があったことから計画した。

問題点・課題としては、① 教育時間が少ない(免疫、病理、微生物)、② 実習指導の教員不足、機器、器具不足(免疫、病理、微生物、情報科学、生理、遺伝子検査学)、③ 実習用検体の確保(入手困難)並びにその倫理的問題(免疫、病理、微生物、一般、臨床化学、遺伝子検査学、血液)、④ 研究の時間、費用不足(免疫、生理、遺伝子検査学、血液)、⑤ 学校で教える内容、国家試験問題と臨床現場で行っている内容にひらきがありすぎる(病理、情報科学)、何をどこまで教えるべきなのか明確な基準がない(遺伝子検査学)、教育施設間で実習経費等に著しい格差がある(遺伝子検査学)、⑥ 医療全般を支えているはずの情報処理が他の教員から敬遠されている(情報科学)、⑦ コンピュータ操作の相談からネットワーク保守活用

に至るまで本来の研究教育業務以外の雑用が多い(情報科学)、⑧ 採血実習における承諾書・神経損傷・保険加入の問題(血液)などの意見が出され、現在の教育現場で抱える問題が浮き彫りにされた。

以上の結果、各施設の状況把握とともに自施設との相違点、抱える問題点の把握が出来た。さらに、そのことが講義や実習、国家試験対策、研究活動などに対して、教育施設の枠を越えた連携体制を構築し、問題解決が図れないかとの前向きな意見となり、今後の研修委員会に課せられた責務の重さをひしひしと感じさせられた。

今後取り上げて欲しいテーマとしては、① 若手教員の意見交換の場の設営、② 検体の作り方、③ Laboratory Scientist の養成等が挙げられた。また、要望としては協議会を通じて検体の入手が行えるような方策はないか、学生実習における個人情報取り扱いに対するガイドライン作成を行ってほしい等の意見も聞かれた。各部門の内容の概略は Medical Technology 誌の 2009 年 3 月号を参照されたい。

本内容は筆者の原案を各進行役の先生方に加筆いただき、補完・完成させたものである。